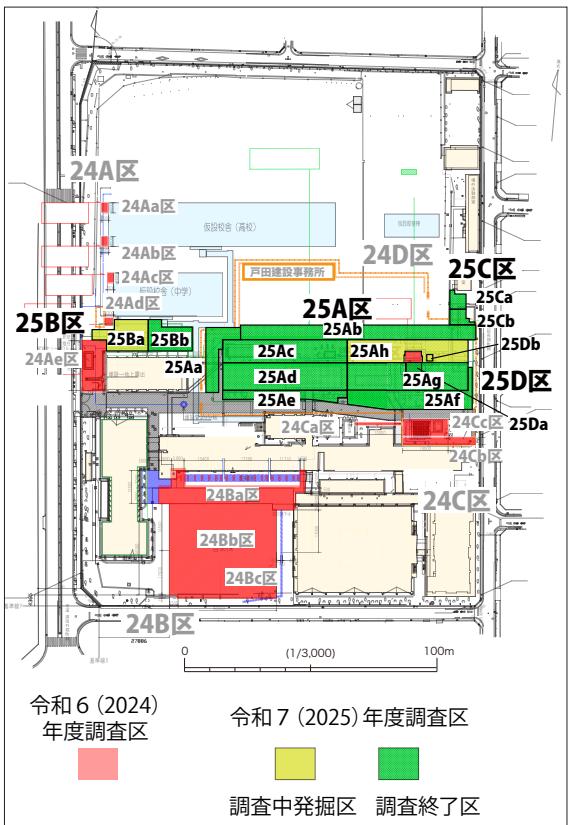


ごみ穴から読み解く愛知の学校史

西二葉町遺跡は、愛知一中や名古屋帝国大学、愛知県立高等女学校、そして愛知県立明和高校といった明治時代から現代に至るまで教育関連施設として利用されていた土地です。関連する遺物も出土しています。多数は「み穴から出土しました。

土遺物の見学をしていただきました。総勢二十五名もの御参加がありました。また、十月二十一日には、この地域の有志の方々に、発掘調査現場の御見学と出土遺物についてお話をさせていただきました。実際に、現場や遺物を見ていただくと同時に、江戸時代の成瀬家や、その後の愛知一中や帝国大学、第一高等女学校など学校の変遷についていろいろ思いを巡らしていただきました。考古学や歴史がより身



西二葉町遺跡 24 区・25 区 調査区位置図

西一葉町遺跡発掘通信

西一葉町遺跡発掘通信
No.13 令和7年11月号

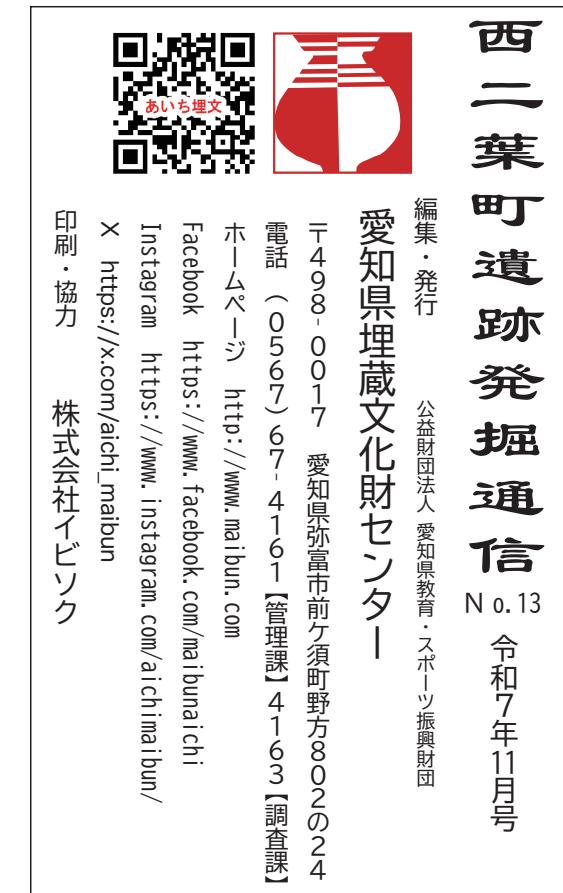
秋も深まってまいりましたが、いかがお過ごしでしょうか？

近なものとして感じていただけたようになります。また中学校校舎の前で行っている発掘調査では、休憩時間や授業後に興味深く現場を眺めている生徒さん達もいらっしゃいます。



愛知県立第一中学校閨連出土資料

多くの人が 10 月に調査した AF 区のごみ捨て穴から出土しました。戦前のものと考えられます。旧制中学には 12 ~ 17 歳の男子学生が通っていました。当時の学生生活が分かる資料です。



A close-up photograph of a dark, textured surface, likely soil or charcoal, showing small, scattered white fragments, possibly bone or shell debris.

名古屋帝国大学関連ごみ穴
(昭和時代・戦時中か)
穴も、詳しく調べて
の学校史を明らかに
なります。何気な
視点を変えれば貴重
のです。(柳原麻子)

ることで、愛知県の近代化する重要な手がかりといいごみ穴のようですが、里な歴史資料へと変わる

鉛筆等の文房具や日用雑貨が見つかりました。九月に発掘調査をした名古屋帝国大学関連（戦時中か）のごみ穴からは、ガラス製の実験器具が出土しました。当時設営されていた理工学部が実験用に作ったものの、製作に失敗し捨ててしまつた器具のようです。



愛知県立第一高等女学校 学校玄関基礎



上：25Bb 区 2面目【江戸時代整地層上】の様子（西より）

下：名古屋帝国大学関連遺構（地下室）土層断面

25 Bb 区は、仮設中学校校舎と食堂の間の調査区で、九月二十九日から調査を開始しています。東西に二分割して調査を実施しており、すでに東側の調査（25 Bb 区）は終了し、現在は西側（25 Ba 区）の調査を進めています。ここでは、25 Bb 区の成果をお伝えします。

調査は上から順に、①明治時代以降の整地層、②江戸時代整地層の上面、③江戸時代の整地層の下、そして④熱田層上面での調査を実施しています。近代以降では、名古屋帝国大学校舎跡と、愛知県立第一高等女学校校舎基礎との配置関係を確認することができました。また、名古屋帝国大学に関する地下室の存在も確認できました。第一高等女学校時と思われますが、土坑内に捨てられたものを見ますと、茶碗やどんぶり鉢がまとまっていました。

25 Bb 区は、仮設中学校校舎と食堂の間の調査区で、九月二十九日から調査を開始しています。東西に二分割して調査を実施しており、すでに東側の調査（25 Bb 区）は終了し、現在は西側（25 Ba 区）の調査を進めています。ここでは、25 Bb 区の成果をお伝えします。

調査は上から順に、①明治時代以降の整地層、②江戸時代整地層の上面、③江戸時代の整地層の下、そして④熱田層上面での調査を実施しています。近代以降では、名古屋帝国大学校舎跡と、愛知県立第一高等女学校校舎基礎との配置関係を確認することができました。また、名古屋帝国大学に関する地下室の存在も確認できました。第一高等女学校時と思われますが、土坑内に捨てられたものを見ますと、茶碗やどんぶり鉢がまとまっていました。

25 Bb 区 発掘調査の成果

25 Bb 区は、仮設中学校校舎と食堂の間の調査区で、九月二十九日から調査を開始しています。東西に二分割して調査を実施しており、すでに東側の調査（25 Bb 区）は終了し、現在は西側（25 Ba 区）の調査を進めています。ここでは、25 Bb 区の成果をお伝えします。

調査は上から順に、①明治時代以降の整地層、②江戸時代整地層の上面、③江戸時代の整地層の下、そして④熱田層上面での調査を実施しています。近代以降では、名古屋帝国大学校舎跡と、愛知県立第一高等女学校校舎基礎との配置関係を確認することができました。また、名古屋帝国大学に関する地下室の存在も確認できました。第一高等女学校時と思われますが、土坑内に捨てられたものを見ますと、茶碗やどんぶり鉢がまとまっていました。

それより下は、江戸時代の成瀬家の屋敷の痕跡も見つかっています。25 Ah 区では、「地下室」、ごみ穴である大形土坑が見つかりました。地下室は江戸時代の遺跡でよく見つかる穴蔵であり、防火対策として有効であったようです。今回見つかった地下室は一辺二～三メートルの四角い穴です。穴の縁に沿うように、柱を立てるための丸い穴が掘られていました。屋根のついた建物が設けられていたかもしません。

（柳原麻子）

25 Af 区・25 Ah 区では、先月と同様、愛知一中の校舎のレンガ積みの基礎（明治時代）も見つかりました。横に約三十～四十メートルの東西に長い調査区ですが、調査区全体に連なるほどの長い基礎です。

25 Ag 区・25 Ah 区では、先月と同様、愛知一中の校舎のレンガ積みの基礎（明治時代）も見つかりました。横に約三十～四十メートルの東西に長い調査区ですが、調査区全体に連なるほどの長い基礎です。

25 Af 区では多量の文房具や食器が捨てられた穴が見つかりました。出土資料の中には、「一中」の文字が記されたものも含まれることから、愛知県立第一中学校（愛知一中）時代のごみ穴のようです。資料の詳細は四頁で紹介します。愛知一中は明治時代に西二葉町の地に設立され、昭和十三（一九三八）年に、校舎を残してまま新出来の地に移ります。愛知一中関連の備品がまとめて捨てられた所でしたら、おそらくこの引っ越しの時期、つまり昭和時代（戦前）のごみ穴ではないかと考えています。

今年度の調査区の中でも西側の調査区、25 Af 区・25 Ag 区・25 Ah 区の前半の発掘調査の成果を紹介します。

25 Af 区・Ag 区・Ah 区 発掘調査の成果



ドローンで遠景、手持ちのデジタルカメラで近景の写真を撮ります。



25Bb 区 3面目【江戸時代整地層下】の様子（東より）



25Bb 区 井戸断ち割り土層断面



25Bb 区南壁土層断面（屋敷建物の柱列が確認できます：白矢印）

一方、江戸時代の成瀬隼人正中屋敷関係では、屋敷建物に伴う柱列の跡がまとまってみつかりました。同じ場所に何度も柱が設置された様子も確認され、柱の痕跡も大きいことが特徴です。またこの調査区からは、井戸が五基と集中して確認することができました。当時の賄所（炊事場）が付近にあったことに対応するものだと考えられます。

（川添和暉）

います。当時の食堂もこの付近にあったかもしません。

柱列の跡がまとまってみつかりました。同じ場所に何度も柱が設

置された様子も確認され、柱の痕跡も大きいことが特徴です。ま

たこの調査区からは、井戸が五基と集中して確認することができ

ました。当時の賄所（炊事場）が付近にあったことに対応するも

のだと考えられます。